平成28年7月9日
地域連絡協議会資料

要求・確認事項リスト（協議会宛　クロスフォート玉川上水　専任者　山崎　武）

作成日：平成28年7月9日　クロスフォート玉川上水　専任者　山崎　武

No	打ち合わせ日付	No	回答希望内容	詳細・補足	回答希望日	回答部門	回答日付	No	途中経過回答内容
1	2015/10/17		人口、排出量の予測値をまとめたベースデータを提示して 説明をお願いします。	平成２７年１０月の協議会Ｐ21片山氏の発言で、裏づけ資料がもっと厚いものがあるんです。これはその結果だけをアウトプットしていますけれども、どれをどのように計算したかという部分がありますので、それは次回でお示ししたいと思います。	2016/7/9				
2	2016/6/11		小平市が昨年（平成27年）に実施した、２度目の組成分析		2016/7/9				
3	2016/6/11		環境省が作成した「平成24年度版、ごみ処理実態調査」の 資料を配布をお願いします。 同時に平成２５年、平成２６年度版の「ごみ処理実態調	プロジェクターを使って説明する時は、紙の資料を各委員に配布して下さい。スクリーンから離れた委員は確認が難しい。 今回、平成24年度の資料を使って説明をされたが、単年度の資料だけで予測数値に近いとの説明に疑問を感じます。	2016/7/9				
4	2016/6/11		環境省が作成した「ごみ処理実態調査」と公益財団法人東京市町村自治調査会が作成した「ごみ処理実態調査」の違いを 説明して下さい。（添付資料-山崎①）	容器プラの排出量が異なっています。 今回、説明された資料のうち、４市（青梅市、小金井市、国分寺市 、清瀬市）が東京市町村自治調査会が作成した「ごみ処理実態調	2016/7/9				
5	2016/6/11		環境省が作成した「ごみ処理実態調査」で示された国分寺市の数値が、国分寺市発行の市報に記載されている数値と違っている。何が原因か教えて欲しい。（添付資料-山崎②）	行政が配布や広報した市報は大きな間違いは無いのでは？との認識を持っていますが、正直、よくわかりません。 仮に市報の数値が正しいとすると、説明の中で示された 数値（31.14ｇ）が少なくなります。	2016/7/9				
6	2016/6/11		小平市の組成分析調査結果についての回答資料、【確認事項と感想】９で平成26年度実績での予測では約1500ｔ/年との回答ですが、平成31年以降の可燃、不燃からの移行量がそれぞれ何ｔ見込まれるのか教えて下さい。 ごみ量予測（最終版）には、こで、小平市に ついては可燃ごみと不燃ごみに含まれる容リプラの潜在量を想定し、 平成 31年以降は可燃ごみ、不燃ごみからの移行量を見込みます。と書かれています。	平成31年以降の可燃物、不燃物から容器プラに移行する量を知りたい。 片山氏との面談で自分が作成した資料の間違いを指摘されました。 皆様に配布しました資料の５枚目裏の表一番下に記載している焼却量資源化率の元データが、容器プラに移行した後の数値なのに、その数値から更に燃やしているプラの50%を引いていました。従いまして焼却量資源化率は表の数値より少なくなります。	2016/7/9				
7	2016/6/11		現在、小平市が燃やしているプラを、小平市のリサイクルセンターで処理ができないのか？能力的に難しいのであれば、他の方法を検討してはどうか。	小平市が燃やしているプラ量は予測するのは難しいと感じる。 小平市の不燃物排出量が他の２市に比べ、異常と思われる排出量となっており、資源化にまわる可能性がある。 東大和市の容器プラ排出量は不燃物排出量より多くなっている（平成27年度実績） 東大和市、武蔵村山市の容器プラ一人当たり排出量に比べ、小平市の一人当たり排出量は多くなっている。 実施計画の予測値に対して、増減のどちらにも振れる可能性があり、予測値が妥当かどうかの判断が難しい。 4団体で知恵を出し合い、実際に資源化される量をなるべく正確に出す必要があると考えます。	2016/7/9				